

科目	建築計画 (Architectural Design and Planning)		
担当教員	亀屋 恵三子 准教授		
対象学年等	都市工学科・5年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S1(100%)	JABEE基準1(1)	(d)1.(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	建築物の設計を行うためには、そこで展開される人々の生活がうまく機能するような空間を計画することが必要である。本講義では、建築計画で用いる基礎的手法に加えて、各用途の建築物に関する計画論の概要を学ぶことで、建築設計に役立てるものである。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-S1】住宅、公共施設について、その計画手法の概要を理解し、建築士試験における「計画」分野の基礎知識を習得することを目標とする		建築に関わるスケールについて理解したかどうか、また住宅、医療福祉施設、学校について、その計画手法の概要を理解したかどうか、中間試験で評価する
2	【A4-S1】空間を構成するエレメントを理解し、建築のデザインについて理解する		空間を構成するエレメントを理解し、建築のデザインについて理解したかどうか、レポートで評価する
3	【A4-S1】空間デザインを創造し、わかりやすく発表・説明・討議できる。		自分で作成した空間デザインのコンセプトが形やプレゼンテーションにいかされているか、パワーポイントによるプレゼンテーションにより評価する。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験50% レポート20% プレゼンテーション30% として評価する。100点満点とし60点以上を合格とする。中間試験のみを行う。		
テキスト	なし (随時プリントを配布する)		
参考書	「空間デザインの原点」, 岡田光正 (理工学社) 「住まいを読む 現代日本住居論」, 鈴木成文 (建築資料研究社) 「建築計画」, 長澤泰 (市ヶ谷出版)		
関連科目	応用CAD		
履修上の注意事項			

授業計画 1 (建築計画)

回	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	建築計画とは何か	建築と生活の意味について理解し, 建築を計画することについて理解する
2	空間デザインの基礎(1)	人間の動作寸法と空間構成に対して理解を深めると共に, 各自の人体寸法を理解する.
3	空間デザインの基礎(2)	環境心理やパーソナルスペースなど, 空間を創造する上での計画基礎を理解する
4	住まいを計画するI	生活と空間の関係を捉えながら, 日本住宅の近代化の流れを理解する
5	住まいを計画するII	集合住宅の設計方法, 共同住宅(コーポラティブハウス, コレクティブハウス)など, 多様な住まい型を理解する
6	福祉施設の計画	福祉施設の計画について, ユニバーサルデザインを含め計画手法と社会ニーズについて理解する
7	学校の計画	運営方針や計画のスタイルについて, 海外の事例も紹介しながら計画技術を習得する.
8	中間テスト	1~7回までの範囲について試験を行う
9	空間デザイン1	1~7まで学んだことを踏まえて校内の一部のリニューアル計画を行い, 敷地の計測等を行う
10	空間デザイン2	図面や模型作成したものを整理し, プレゼンテーションに向けての技術を習得する
11	空間デザインと表現2	リニューアル計画についてのエスキス
12	空間デザイン3	引き続きリニューアル空間の設計を行う
13	空間デザインと表現1	課題の発表として3~5分程度のプレゼンテーションを行い, 各自のデザインについての説明を行う. 他者が行ったプレゼンテーション内容についての理解を深めるため, コンセプトに対する批評を行うことによって, 多様なデザイン手法やコンセプトの設定に対して理解を深める.
14	空間デザインと表現2	13回目と同じ
15	空間デザインと表現3	プレゼンを行うとともに, 課題のまとめ, 空間に関するディスカッションを行う
備考	前期中間試験を実施する. 試験, 課題(レポート)の提出とプレゼンテーション内容等によって評価する.	